

序 文

妻籠宿には、脇本陣（町営奥谷郷土館）は現存していますが、本陣はのこっていません。本陣を復原したいという構想は昭和42年に妻籠宿保存を始めた頃からありました。昭和56年には、本陣跡地が林野庁から南木曾町に払い下げられ、旧営林署の庁舎と官舎は撤去されて、現在は住民の運動広場になっております。本陣を実際に復原するとなると、多角的見地から今後とも検討していく必要があります。ただ、その可能性の有無は早急に調査すべきですので、この度発掘調査を実施いたしました。

発掘調査は、昭和60年夏、近年稀にみる酷暑のなかで行なわれました。今回は試掘の段階で、全体の解明はできませんでしたが、礎石などを発見したことは大きな収穫でした。出土品からは、中世の妻籠の歴史を解明する手掛かりが得られました。これは予想しなかった成果です。

炎天下をものともせず、精力的に発掘調査を実施していただいた奈良国立文化財研究所上野邦一先生と名古屋大学大学院生字津野金彦氏、またお忙しいなかを出土品分析をお願いした愛知県陶磁資料館井上喜久男先生、に深甚なる感謝を申し上げます。発掘作業をお願いした地元の方々に厚く御礼申し上げます。

この報告書が、妻籠宿のより一層の振興に寄与することを祈念いたします。本陣跡地の今後については、十分検討した上で方針をだしていきたいと存じます。

昭和61年2月

長野県南木曾町長 早川 慶 明